

FACE 廣岡哲也



現在分譲中の「デュオアベニュー国立」(東京都国分寺市)。アーチ型のデザインがセールスポイント。この日は完成した物件の視察に訪れた



株式上場は通過点。「これからは会社の発展とともに、社会へ貢献できるような事業に取り組みたいと思います」



住宅の中に入って担当販売員から説明を受け、最後まで入念にチェックする



日本で2番目の標高を誇る「北岳」登山にチャレンジ。仲間みんな、特別な経験をおし達成感と感動を味わうことをテーマに、昨年は富士山に登った。グループ各社の社長、部長クラスから1年まで、今年は約50人が参加した

郊外、大規模のマンション分譲から次はシニア向けに参入

1994年にマンションデビューとして創業し、9年9か月後の2004年、ハイスペックで東証1部に上場した。



茨城県つくばみらい市で建設中のシニア向け分譲マンションの目玉は天然温泉と、一大テーマは眺望なんです。日本人は昔も今も温泉が大好きなので、敷地内を巡り「みらいの湯」と名付けました。

リクルートコスモスを経て独立した廣岡氏は、大手と同じ土儀で戦っても勝機がないと考え、「マーケットには出ていないが、顧客が本当は欲している商品を提供しよう」と考えた。その具体策が、郊外、バス便、環境創出をコンセプトとする大規模ファミリーマンションであった。駅近マンションこそ、価値があると

いう業界の常識とは懸け離れていたが、「毎日通勤するご主人には多少不便でも、割安で広い居住空間を得られるメリットのほうを選ぶお客さまも多いのです」。同社はこれで急成長したが、リーマンショック後は大手業者もこの分野に参入し、今もし烈な競争を展開している。経営環境の変化に対応すべ

く、今最も注力しているのがシニア向け分譲マンションとリノベーション事業である。そのうち、シニア向け分譲マンションの自社物件第1弾となるのが茨城県つくばみらい市に建設中の9階建て総戸数150戸の大規模マンション「デュオアベニューつくばみらい」。「シニア層で介護を必要としない人は9割もいる。あえて終身利用権ではなく、相続や売却も可能な資産性の高い分譲型で、シニアマンション事業を始めてきた」と廣岡氏。「デュオアベニューつくばみらい」は24時間見守りサービスや看護介護施設のほか、娯楽施設や天然温泉の大浴場なども設置する。廣岡社長は次のステージとして、法定再開発等による、地方都市の活性化が念頭にある。既に両館市において、同市・中心市街地活性化基本計画に基づき市街地再開発事業に、また、宮城県石巻市において、同市「復興整備計画」に基づき再開発事業に取り組むことを予定している。「これまでは自己と自社の成長に邁進してきましたが、これからは時代の変化に合わせて、社会の要請に応えながら成長する企業になりたいですね」と語る。

欲しかった暮らしを、しよう。